湖月抄

約書

石瀨文庫

行幸　弁七　細

巻名以称号之大原野の行幸なり。

かしこきしあさぐもりせずあるさやうなるそのひら
やとんて　盃日　細　源三十六冢の十二月に三十七冢の二月にて
のまに豆の並に初音也世古冢に注抄曰　曷東　彼一流
よきうつ初音乃壹しうし世古冢に源氏三十九冢に
初世壹のうめよ世古冢の九月十月十一月等のまに
こもりて大原野の行幸ナラ月のまに次の年
源氏三十六冢乃二月まての事とあり　抄　或説
天子のと行幸（ギヤウガウ）とふ説のと御幸（ゴカウ）とふいつれをくみ
さしもしく

くはぶりつつ　細　お鬚を添の地ぶりなる
こいうるて紅縁りなるとく　盃　お鬚を立はま
つるせんう人伝とるせん
と源ひろくの冢まり
世をとすのうき
細源下にんうけまうこ
いうみてつようう人
とのの山乃ちうう歌うき
すのうきの世奇三十九
のようにうよ人めづきを
をうこうして下にみうう
きうすのうきいうみて
いうようう人ーー
抄　或説のうこいうでうう
人とうふ初よいふ世山の
きれうすうう。うてていに
しうとうう初をうれん
人めづきうこうう或説
あひうこうり　曜　二月
ミうきのうの人のれをつうり
ごうん　第二の抄説をよ
ようでうう　三胡撩の

くはぶりつつうこうぬうこうるくいうでようう人
うつうはぶりつうひまうびびとうるうん
ぬうきうこうこうこうこうれうのうん乃れ
をうこうるうひて。うぐうしうう
されの名うれ　盃　源のうし　細　内大臣
三内者の抄説　説のうきうきうこうう
うはくうしうこうこうとうとうう海の
うう紙はぶり思ひうるび地ーうふれうう
海をうきうひび海うくけうやううれを
てうーうびうのあんようけてうゆうこぶう
ううやううびはりうくうきふそのうこうとうう。大
東冢の行幸（ぎやうかう）　冷泉院の野行幸　元騒
ぐを。六冢冢乃ちうもれううこうひうきゆうう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

下ぐるはいとびぞめ、光は鷹をとりぬ人の装束よろ
みくさ上をアヤ　花李部玉記鷹飼親王公卿着地摺布衣及袴或用紫木蘭色綺袴小袖袋
今案王々の奮剣の装束布衣の摺の紋あるとあり袴と同し　或は紫木蘭地のきぬ
の指貫ともあり　ふり　袖よりはトにて　ふり　袖の長さ　ふり　袖よりはトにて
縫のあり　ぬきあり　仁和の芹川行幸に行幸の中納言の大奮剣のふり袖より袴と文
ありいとも王々の奮剣のふり袖　仁和二年芹川の行幸日公卿皆着摺衣下畧
き衣の奮剣　細　佐衛　衛　府　を云　略　ふり　袖　花諸衛とは六衛府のまゆみ
弟　この　ふり　袖　ふり　袖　ふり　袖　ふり　袖　ふり　袖　ふり　袖　明一
人堂調習鷹大事　細　行幸　花　延長六年二月十五日　花　延長六年二月十五日
の官人として　検非違使
の役実あり

花　帝範曰人主之躰如山岳焉高峻而不動

上よりの所をとり　下畧
うぐいすのなきはじめ　細　内大臣
伝文中ぐ　細　内大臣
よ同　うぐいすのなき
く　面　ぬ　の　の　の

それなりもあるぞとてはゆるい
うくくとエのもとれまを
まつるみうらてくく
あてたら人いくるゆるとよ
けるけるひくとろろぐき
物よ　仰おろくつぬよ
源氏ゑ、夕雲方ゆくよめる
れるひくくき人いくるよ
うんとゆふよくみ音朝
よそそくくろくく

ぬを。孟上みくおりまをいてまつてい
けるくめぐくくさたりさんくるるぐひて
かりぐくうんりくりあてたりるひといくれりの
くくげよけくひくくるぐい物よあくい中
れるひくくき人いくるよ　源氏
ねるぐのれりりひよめるれるるとい　ぐく
ぐくのくくるくくやあく　細巻
くくくく

[illegible]

六条院[illegible]酒二荷炭二荷火炉一具也 花 延長六年の例とぞ[illegible]

[illegible]

細 源氏より一献を[illegible]

[illegible]

細 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

愚案　三細因義　仰伝いとし　仍女院

細男女装束

内大臣の加冠のごとし　三ぬぎ

の御裳唐の勝ゆひよ文

ゆひ物後の中に内侍姫君

狩衣中文今ぬぎ内

大臣ゆひ男女あつ

細内大臣　三条の大ぬし

細御服　三ヶ月の服

細御服

細御服

細御服

細御服

細御服

[illegible]

三 けハ佐ゝ濁ル仮

正字紙、海の名てあり

しらも別義おりま

さぐると安部[illegible]

[illegible]

三 ほの海剛明新沢金折

腰の歎の故事をひく。

ほの海の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三 内府と呼ばれる細川一切のおぼえ

三 一さいの汚れを嫌ひ給ふ

三 以上十三人侍所

三 内府のおこしも終りの内府のおこしもの

三 侍所

三 侍所

三 侍所

従三位廣井女王應和三
藤原濃任尚侍之例之
畧記之

[illegible]

と家[illegible]の[illegible]で家の
[illegible]
なり[illegible]
[illegible]
[illegible]

せうそこのしを
おなじけ勝ゆひよいのやぐ
をるん清島まし　まひ
くれいとあり　ぬのもと
はるやうまとこんもて
細大文はるやうこば勝
絵のもを故障あり
まし　盃大文の福乱よ
るまいせくとと
れくこうひとせうつい
でよるん　三　そひ三ぬう
はかもと　作ゝ　そひ三
まつり　ゝ　ゆよ　よ内方
よ財布まて　彼るよ
あるとと

はまりて
細　ぬうの絵　ぬわまと清
まで　只源の出ん　ん人のん
源き中を出及て　宣文
ひ方　ゝ　ゆ　ゝ　内府
ぬのるゝ　南庭ぬら

しぐさやゝをとひめぐゝて　をゝそこ
ぬ紙はるる　やゝよゝとつけて　拾うげよすま
ひまつゝし　げよありもとびんるゝ　ゝひと
まり作よ　細大文のは福のゝうゝ　ゝもの
るをうゝ　ゝひとをつぐゝよゝ　ん
ふまつゝ　お紙ゝまゝ　ゝ内府へ作ゝれ作ぬゝ
絵　文つゝよ　ゝつゝ　りのをゝせ　ゝ
ぐよゝ　細　ぬの出絵　ゝ不宣　ゝ　ゝ
ゝ海ぐよ　ゝゝるよりすゝ　ゝ　細　ゝ
くひつひ　ゝ求めゝ　ゝ
のまだぐ源を　絵のゝ　ゝ内府
くひきゝ　ゝ　ゝ
しぐつゝ　細　源の絵　作ゝ　ゝ
ゝ人いゝつゝ　ゝ

の地ゝぐとのゝゝつゝ　ゝ　ゝ
くゝつゝさるを人のゝゝ　ゝ
作れいあゝ　ゝんよつけても　紙　ゝ
ひゝ　ゝ作ゝんを中絵の紙絵　盃　ゝ
まゝゝを作ゝぐ　ゝ　ゝ
ぐゝ　ゝ地ゝ
みゝ三条の　ゝ地ゝ
ゝ　ゝ　お三条のゝ内府の
ていゝ　ゝ　ゝ
ん　表法　ゝ　ゝ　お作座　盃
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

あゝせよ　ゝ
ゝ　ゝ
の　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よいぐせんと云ひやそ
らつく、そもしさてこそ
つまき人とふ内府の性
をそろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孟内府の臣別

細内府の臣

孟源の臣

細内府の臣

孟源の臣

細内府の臣

孟源の臣

十六日ひんのつゐてに彼岸寺法成通経日
一切衆生依持二八月節
十方世界一切衆生離苦
得楽霊瑞所已乃至市
春中秋昏夜各五十刻
と時正とて仍吉日多キ
いそぎ立つて　細内宮に
のつとり給ふ　細内宮に
あべらるるも　細内宮に
参詣せらるべきなり

十六日良辰のつゐ日なり　細内宮
二月つごもりよりはじめ
ひんのつゐ日なり　細内宮
十六日ひんのつゐ日なり
細内宮に
参詣せらるべきなり

会氏まうでの
おりに　細
の字妙之
八とひるくれとも今夜
文字ばかりなり八日と
ばしりさして
以ぶりのとしのはじめ
やしうのしまうひ会を
うつし　細　源氏のまりの
らよあつれなりと夕
雪のあのまつまつと銀
ひしりて今ここのうち
と国給いてとるあえ
ひとつ給
あつまるのさ人　細　雲ね
原こ雲み原こうちいま
さりさまなる地とこ
るともわしこぞ　直の
こ花多ニハ花もわるずと
ニ
されどあるもどうれうけ
ちるべき　細　雪み原と
ひつけまぐこ又ぐこ

会氏まうでの　実文ちも会氏ちうこ
おりに　細
の字妙之　会氏ちうこ
八とひるくれとも今夜
文字ばかりなり八日と
ばしりさして
以ぶりのとしのはじめ
やしうのしまうひ会を
うつし　細　源氏のまりの
らよあつれなりと夕
雪のあのまつまつと銀
ひしりて今ここのうち
と国給いてとるあえ
ひとつ給
あつまるのさ人　細　雲ね
原こ雲み原こうちいま
さりさまなる地とこ
るともわしこぞ　直の
こ花多ニハ花もわるずと
ニ
されどあるもどうれうけ
ちるべき　細　雪み原と
ひつけまぐこ又ぐこ
まべ　細　表ちうれうちも会氏ちうこ
をおりぐこうこんとと花をりこいと
なんうれしうきうこて　孟　中納の
のおれ　孟　夕雪のこ
みと　孟　むこうこのこ
らてうあーのこもやしべうり
をと　孟　夕雪のこ
をとあすこすこぐりあうよあつれる
きこ人のれ　孟　おこうこ
うれて　孟　おこうこ
是癖と夕雪　孟　夕雪のこ
ちきこうちをこれどあるまこうわちけこう
べきはと　細　夕雪の実法
こうこきまあくしこうれこてそのは
毎日こ　孟　おこうこのこ
よあうて三条のこやうう孟びやうよれつ

ひあり。れぐーのことゝもどあれどもいとこゝろうしみーのひくゝこゝろえんよ
もいまゝくちきみゝこゝ海とゝくふいたものひこめ
ゆれどうゝこゝてもゝるゝこゝろづゝ
と。ゝゝゆゝとべゝやとてゝんめくれよ承
てあゝゝめゝすゝとゝけゝゝえゝん
をいゝぐれゝくゝ絵よちゝゝひくゝん
ゝゝゝゝよいひゝくゆけばゝゝゝげ紙
ゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うらやつ　細今五三ぐで
ところうしく孟内府の奇く
くの業をたつでたつせの
ぬくうくうしく　お業を
む藻とくしろう　表は
業の勝よ出つけてろう
とくみ女よをとりし墨を
何せんよつのろうめを
ひりん仲はむもとうる男
うて

うくるる　細　紙易のくう
べいいづくもるうくを
をすくくしう紙も古紙へ
ぐりしくしく　涙のや
いうりて在るりをくく
ろう孟内府奇をおれさ
せきくぬやぐくよ涙のく
きうし文のくくしうま
つき涙うるて紙くくま
ちもせくと今までおう
ねきいぬと涙のくくしう
いく恨くのうし　お内府
紙涙くくむべくくつと
ぐろくくいむうくを

うえ紙
内府
うくやつ
ろうわまのくうろ
細奇に内のくくしうろ
ろれ紙ひひめぐいくくぐくさゆう紙
どうのくくつくひつきくくえくくえ
紙ろるひぐ敷　涙
涙　年細孟内府
くべるくくくうるぐさんおくせてあま
を易ぬ藻ろぐ　いくくうるされう
ろつぐくくよ　孟内府の退
うくよくんくくくくて　孟内府の退
ぬみくくしつぐ　内府の文
細奇ろる文紙易ろ
ろれけくくべるあまくきてれだ

誰も易ぐくく涙のくう紙
いくやりるるく　細今孟易ろうぬくくうるくくくくく孟内府の奇よ紙ぐくれうくと
くくくうくくうるくくくくくく

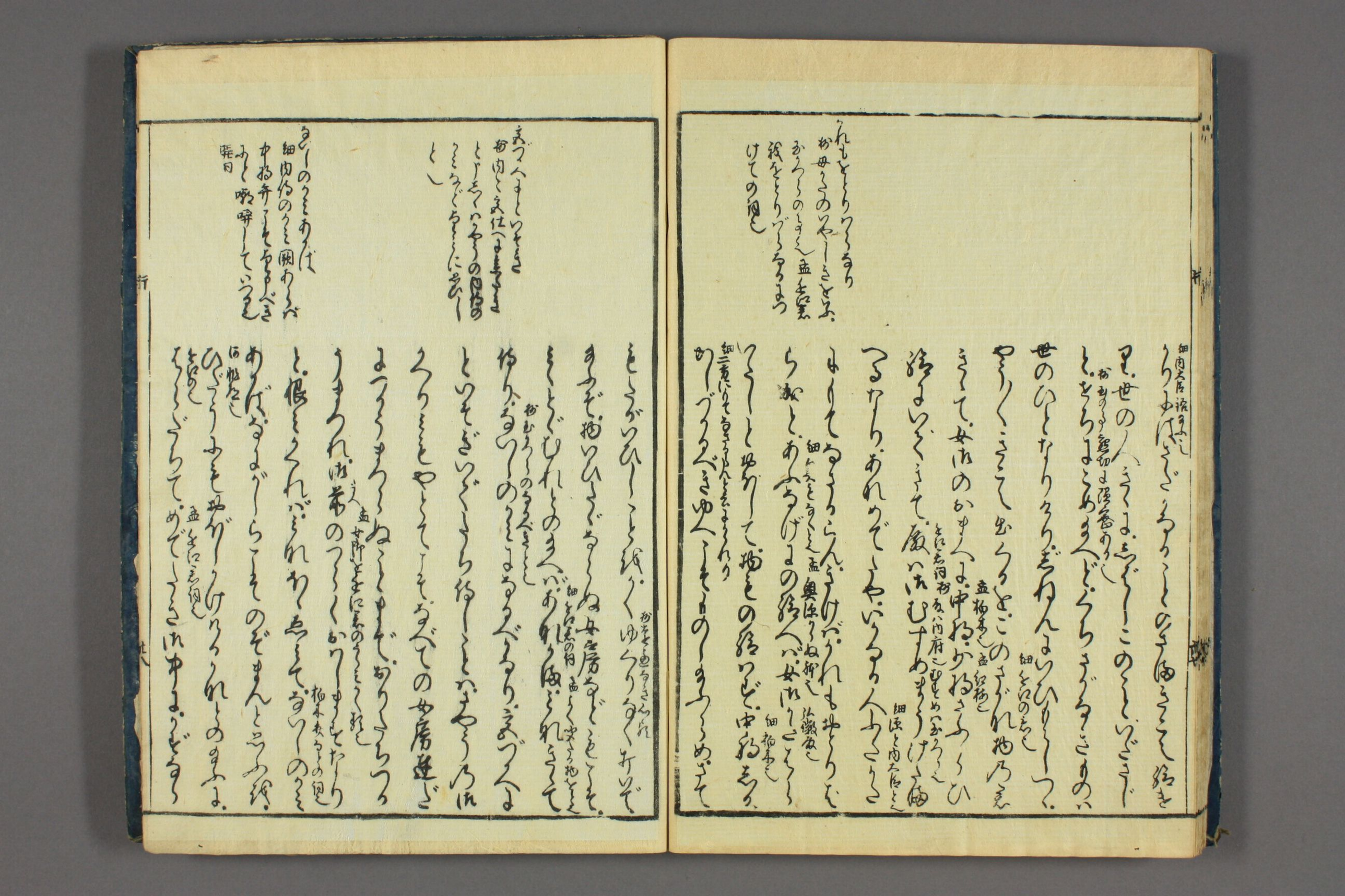
人くれをろひくまを
細尼寺ともろぐくんけ
くくをくくくくいく文
のくくくくくれい紙く
くくくくく
くうくくくくう　細六条院
のくまぐくのるくくく
るくくうるおむくくめ乃
ぐくくくくくくくくく

この中くぐくくいりかくくて涙ぐうくをいくうる
ぬくくるくくくくくくぐひくるくつ。の長ぬぐうる
くくよくうくくくくくくくくく　細中お八柏木　孟内府乃ろくくくくく
中お。弁の尼ぐ　細中お八柏木　孟内府乃ろくくくくく　物語
尼のくの中　涙のくの中
れぐくくひくくく紙ぐくくれくくう
くくうるくま。弁　お紙ぬくくくくくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]



中務のえだ〳〵
おなじ梅木の枝なれども今は
〳〵に咲くをうらと

河史記日日聯盡裂
獘嗜の怒れる姿し
細道に花弱なり
いくえに保りうとも
かれいうとこそも
細かれハなさけく散る
くさめて去のふし
おなじ花ものうとふる
又絵ともも体よ書
の絵ありさしし 畧記
うさいと 細おなじ
うく去るせる細

ぬ人（いまだ）
くみて（孟宗の紙をとしの物てて）
あるさ（おかし細もしきよ似合てうう）
じさ
ち（ぶ風よいぶ）（退）
みく（げをうけれどいてく）（梅木のえ）
じるひ
けてもげよ〜あやまりうこく
まあやうて和し絵かれとうさあて
あくひるさけるを絵と。をろうよいとぶ
さ（ぶ）れをうをうめまてていくさ
撃をもも
いとけもあい書よすまづされうれ

ウくくうさ海くぶんをびめく
あ〜めくし 花日本記第三云天照
ゑ出ハいく記巻とあるべくさるくそ
ますくかのりをしていきをひをそ
しまふくし天照太神とそのをのみ
といるれバまに志のそくぶうくう
ちびう絵ひてくそいまうくもびも

くくそあて雪のうあうくうを
ひのうあうくうを
天照太神踏堅庭而踏服若沫雪以螫散今素戔
嗚の悪行を天照太神のいう絵う時
庭をもれくけうう
絵河のまくうくと。今ふをはと弁かれとを
ひとうるひ絵びられと

あまのいそと 細見者の
ふ奇絵ものう私あうせう。
かれハなぐさあてのまふ
と梅木ハさうに服を
まうぐひのきこそあ
まとと 哦 くき 嶺
の和こせて岩戸乃
うとをうりきこうり
ゆうんくうとと

ちうてるやもく
イ本ちねもうやもく
ちあう龍ものうくうあ

べいまくこうとひうるひまふ時をうるんとあく
ちていひあくまうり中ねもあまのいく
戸をく
絵あれ。絵ろくくうるうてこの志ぐうう
れすげるくくまのよくてれ家のれくうろ
の表よ
やもく
つくまうくうあ

おかを花のまを
孟宗竹
細そうくく
杉下蔦せとそきまそ
孟雑役

この女御とのの
孟 女御どのの御せうと
うれんとおぼして
くるしきこと物は
もいやしくこそ

と近江の人のまつ間と
うるしぶみをとりつゝ
てお宮住をとゝむ間に
文をとりつゝのゝしる女房
に文をとりてのち見る
ふくしく 細 仲仗抄
今年びぐしくのゝ
て二条殿 孟 清濁義
同しうるぐし びく用
義
うへのうちは
発みぐしの出すく
仲ようりけをもてた
まつるうちのりし

一説 細 年人のゝ結
るに云とうていえん
とし 孟 人は物をいそ
ぎへうれよりてふ
ると

よりさいと
よりさんとい
らまし 今まて文とりつゝ
しうとゝ
のゝぐ人あり
せ給ひぐ
てぐおそ
まの人のゝ
細 ゝ
とゝ
せ給ぐつま
をうゝ
つゝ

ゝゝめさぬやうあゝざ
晩点
て文とりつゝ
ぐれよ
孟 ゝ
ん
ゝ
ゝ
ゝ